

日本1次リーグ敗退



日本—イタリア 前半、デロッシがオーバーヘッドキックで先制ゴール。中央は今野＝パンテサリコ競技場(共同)

強豪イタリアに2-3

【アテネ十五日共同】アテネ五輪第3日の十五日、サッカー男子1次リーグB組の日本はボロスで強豪イタリアと対戦、2-3で敗れて2連敗となり、1試合を残して敗退が決まった。日本は勝ち点0で、ガリナとの最終戦(十八日)に勝っても準々決勝に進出できるB組2位以内には入れなくなった。

「アテネ十五日共同」アテネ五輪第3日の十五日、サッカー男子1次リーグB組の日本はボロスで強豪イタリアと対戦、2-3で敗れて2連敗となり、1試合を残して敗退が決まった。日本は勝ち点0で、ガリナとの最終戦(十八日)に勝っても準々決勝に進出できるB組2位以内には入れなくなった。

日本は立ち上がりから2失点する厳しい展開。阿部(市原)がFKを直接決めたが再び失点し、前半を1-3で折り返した。後半はロスタイムに高松(大分)のゴールで詰め寄ったものの、追い付かなかった。一九六八年メキシコ五輪銅メダル以来三十六年ぶりとなるメダル獲得を目指したが、2試合続けて1点差で惜敗した。

チームにたたき込もうとしてきた攻撃の理想型を逆に見せつけられた。日本の山本監督は「世界基準の精度の差がこの結果になった」と話すしかなかった。いきなり前半3分、左クロスの高い技術のオーバーヘッドキックで決められた。5分後にはロングパスを受けたジラルディノに1対1で抜かれ、2点目を許す。

そして36分にはカウンターからの左クロスを頭で合わせて3点目。ボールを奪ったら、素早くゴール前に送り込むという日本が目指してきた形だった。

日本にも狙い通りの攻撃がなかったわけではない。例えば後半1分、田中達之のスルーパスから松井がGKと1対1になった。しかしシュートを打つのが遅すぎ、DFに追いつかれてしまう。3度も完ぺきなシュートを披露したイタリアに対し、日本の仕上げはあまりに頼りなかった。

2-3のスコア以上の差が、日本を早々と夢舞台から引き降り降ろした。(ボロス共同 戸部丈嗣)